

平成 30 年 6 月 26 日

医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業
e-ASIA 共同研究プログラム
事後評価コメント

研究開発課題名 インドネシアで流行している H5N1 高病原性鳥インフルエンザウイルスのパンデミックリスク評価
研究開発機関名 東京大学
研究開発代表者名 河岡 義裕

高病原性インフルエンザの発生は、東アジアだけでなく、世界共通の健康福祉に関わる重要な問題である。発生源と考えられるインドネシアでの H5N1 鳥インフルエンザウイルスの流行状況の疫学調査、病原性調査を行った結果、H5N1 ウイルスの病原性、レセプター特異性、薬剤耐性のデータが得られたことの意義はパンデミックのリスク評価を行う上で大きい。また、3 カ国間の特性を活かした協同研究体制がうまく機能したことは高く評価できる。

一方、本研究成果をより発展させるためにも、インドネシアは試料収集が主な役割となっているため、インドネシアの研究者によるウイルスの性状や病原性の検討が可能になることが重要である。また、フェレットを用いた H5N1 ウイルスの病原性、飛沫伝播能の解析の成果が明確ではない点など、今後、研究開発の継続や活発な交流による現地の研究レベル向上に貢献することを期待する。

以上